

# The Reminiscence of Exellia 蒼天のヴァルマーレ

## ヴァルマーレへ

### 作成レギュレーション

#### 基本概要

- ・経験点：150000 点
- ・資金：288000G
- ・名誉点：1900 点
- ・成長回数：289 回
- ・マジテックトームストーン：戦記 1000 個、詩学 450 個
- ・アイテムレベル制限：武器ランク S 以上／防具ランク S 以上
- ・ステータスリミット：各項目ボーナス 15（+増強増分 2）まで
- ・レベル：13～14

#### 制限事項

- ・放浪者／蛮族 PC 禁止
- ・バニラ流派入門・秘伝使用禁止
- ・武器防具強化に関する特殊制限
- ・シナリオ報酬成長回数が 10 以上のとき、その 6 割の偏重割り振りの禁止
- ・戦利品判定は振る

#### その他注意事項

- ・レベル制限逸脱 PC の Lv シンク
- ・ステータス制限逸脱 PC のステータス再振り分け
- ・成長回数制約逸脱時の強制デッドエンド

### 導入

隠れ家にて、出航のための最終調整が行われるプトレマイオス。雪が降りしきる中、外では最後の点検が進められていた。

その中で、エクセリアは君達を呼んでいた。

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「…律の示した、新たな冒険の場…。そこへ向かうには、鎖国中のヴァルマーレへの入国を果たさなければならない…。そのためにも、最初の一步を踏み出さねばならないが…、鎖国中のヴァルマーレで異常なことをするのはよくない」

そう言って、エクセリアは少し目を閉じて思案する。  
その様子を、君達は普通に見守るだろう。

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「残す『宙準星の牙』は4つ、それを解き放つという君達の責務も多少はあるだろう。  
私は諸用を果たすためにヴァルマーレに向かう。これが、後年にどう映るかは、定かではないけれどね」

そう言って、エクセリアは君達を視る。その視界に、一体何が映ったのだろうか。  
その直後、部屋の扉が開く音がした。

トーレス

「焦りは禁物だぞ、エクセリア」

エクセリア

「…艦長」

そう言って、エクセリアはトーレスに目を移す。

トーレス

「律が示したという、新たな冒険の場所…、ヴァルマーレ。そこで何をするにせよ、焦ってことを急いては、積み上げたものが水泡に帰す危険性が高まるというもの。それでは、難しい目標を照準するところではないということだ」

(※GMメモ：RP待機)

トーレス

「そこで、朗報を持って来たぞ。

我がシンファクシ家当主、エイドリアン・ド・シンファクシ伯爵が、君達の後見人となることを、申し出てくださってな。

これにより、君達はヴァルマーレ四大官家のひとつ…『シンファクシ家』の庇護下に置かれた正式な客人として、帝都に入ることが可能となった。まずは本家の屋敷を拠点に、情報を集めながら、今後の方針を固めるといいだろう。

新たな冒険には、相応の情報が必要だ」

そう言って、君達にヴァルマーレ観光に関わるパンフレットを渡すだろう。

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「…分かったよ。その厚意に甘えさせていただくよ。感謝する、トーレス艦長」

トーレス

「よせよせ、俺にそんな敬語はやめろと言ったはずだ。

…こほん。当主は、ミシガン総長と同様に、話の分かる人だ。きっと、お前達にも理解ある対応をしてくださるだろう」

(※GMメモ：RP待機)

そう言って、トーレスはブリッジに通信を入れる。

トーレス

「艦長よりクルーへ。これより本艦は、龍刻とヴァルマーレを繋ぐ冒険者と、龍刻当主の聖王、エクセリアを伴い、等護へと移動する」

君達はその言葉を聞き、頷くことになるだろう。

(※GMメモ：RP待機)

その一方で、エクセリアは目を伏せるように、手元の本を読んでいた。

## 序幕 ～蒼天のヴァルマーレ～

その者は、友を伴いやってきた。

律、ホクトクラフトが指し示した冒険の舞台に向かうべく、また封じられた光の加護を解き放つべく、英雄と呼ばれた冒険者はここに来た。

加護を失い堕ちた英雄は、それでも尚再起を信じ、希望を求めて歩み続けていた。

堕ちた英雄が訪れたのは、アゼルマレム地方から東方に離れた地方、マクルーゼ。そこに含まれる島国であるヴァルマーレだ。国教「ヴァルマーレ神道」の長たる天皇が王権を有し、太陽神ティダンを主神とする、宗教国家の側面を有する。

四大官家率いる貴族たちが、剣と槍を掲げ、仇敵たる邪竜フェルニゲシュとその眷族から都市を護り、戦い続ける。

「邪竜戦争」と呼ばれる、数千年もの果てなき戦いを——。

固く閉ざされた渾沌門の扉を開き、歴史ある帝都に足を踏み入れた、光の戦士たち。

彼ら異邦の者達の到来が、数千年の歴史を揺るがす、変革のはじまりとなることを、このとき知る者はいなかった。

——エイドリアン・ド・シンファクシ伯爵の回顧録『蒼天のヴァルマーレ』より

## HEAVENSWARD: The Reminiscence of Exellia

### エクセリアの追想：蒼天のヴァルマーレ

#### ヴァルマーレの迎え

君達が等護に辿り着くと、執事と思しいエルフの男性が君達を出迎える。

#### シンファクシ家の執事

「《暗魂の暁》の皆様でございますね？ようこそ、等護へ。主より、皆様を『シンファクシ家の屋敷』へ、ご案内するよう言付っております。ここより北に位置します《等護上層》の屋敷にて、『マティアス』様がお待ちになっておいでです。さあ、こちらにお越しください」

(※GMメモ：RP待機)

そう言って、シンファクシ家の執事はエクセリアを伴い、北へ進んでいく。

君達は、まず彼らの行く方向に進む必要があるだろう。

(※GMメモ：RP待機)

徐に、シンファクシ家の執事が口を開く。

シンファクシ家の執事

「聖王様、ご足労いただきありがとうございます。此度は…」

エクセリア

「…世辞はいい、ただ単純に、シンファクシ卿と対談をしに来ただけだ。そろそろ、『邪竜戦争』などというくだらない戦争を終わりにしたいと思っているな」

(※GMメモ：RP待機)

君達が等護の上層、シンファクシ家の屋敷に辿り着くと、そこにトーレスがいた。タバコを吸っていたようで、君達に気付くと中々おかしい笑みを浮かべる。

トーレス

「フフ、フフフフ…。遂にお前達も、等護に至った…。これまで、それはお前達にとって、『難しい目標』であっただろう…。フフフフ…。分らんか？これまで難しい目標だったものが解決される心地よさが！

漸く、戦友を招くことができたこと、心の底より嬉しく思うぞ、冒険者！」

(※GMメモ：RP待機)

トーレス

「ここが四大官家のひとつ、『シンファクシ家』の屋敷だ。現当主にして、我が主でもある、エイドリアン・ド・シンファクシ伯爵がお待ちだ。着いた早々ですまないが、紹介させてもらいたい。さあ、参られよ」

明らかに、テンションがおかしかったが…急に冷静になったあたり、ある種の持病…発作の類なのだろう。君達はなんとなくそう思った。

見識（セージ知識）判定 目標値：21

成功時、単純にトーレスがそういう「変なやつ」であることを察してしまう。察せてしまう。成功した者は、その直後に精神抵抗力判定。

**精神抵抗力判定 目標値：25**

成功時 0、失敗時 1 の最大 MP 減少。この最大 MP 減少効果は、このシナリオの終了時まで持続する。

(※GM メモ：RP 待機)

**シンファクシ家**

トーレスに引率され、シンファクシ家の屋敷の中に入る。

トーレス

「マティアス。ただ今、《暗魂の暁》の皆様と、聖王エクセリアをお連れ致しました」

エイドリアン・ド・シンファクシ伯爵

「おお、到着したか。よくぞおいでになった、《暗魂の暁》の方々よ」

(※GM メモ：RP 待機)

君達を一瞥すると、中々不思議な笑みを浮かべる。その笑みに対し、君達はどことなく不安を抱く可能性がある。

エイドリアン・ド・シンファクシ伯爵

「我が名は、エイドリアン・ド・シンファクシ。お初にお目にかかる。歴史ある『シンファクシ家』の家名を継ぐ者として、一同、皆様の来訪を心より歓迎しますぞ」

エクセリア

「お目にかかれて光栄です、閣下。この度のお招き、誠にありがとうございます」

(※GM メモ：RP 待機)

**精神抵抗力判定 目標値：31**

成功時 0、失敗時 1d6 の最大 MP 減少。この最大 MP 減少効果は、このシナリオの終了時まで持続する。

エイドリアン・ド・シンファクシ伯爵

「礼をせねばならぬのは、こちらの方というもの。等護の民を代表し、感謝の意を示させていただきたい」

それを聞き、少し言葉に詰まったエクセリアは、出かかった罵声を飲み込んで、彼に訊く。

この後、暫くエクセリアの台詞は伏せさせていただきます。なお、「地方語（ヴァルマーレ）」の会話を会得している場合、問題なく聞き取ることができます。

（※GM メモ：言った言葉は斜体下線で書かれている）

エクセリア

「しかし、外様の…しかも、汚名を持つ要人と付き添いの冒険者集団を、客として迎え入れることに、問題はないのでしょうか？」

（※GM メモ：RP 待機）

エイドリアン・ド・シンファクシ伯爵

「聖王様は心配性でいらっしゃる。確かに、我らが帝都『等護』は、邪竜フェルニゲシュとその眷族との戦いに専念すべく、門戸を閉ざしてきた。だが私は、こうした難局にあればこそ、国外の勢力と手を取り合うべきだと考えている」

背後の2人の男たちに目を向け、彼らが頷くのを確認すると、伯爵は続ける。

エイドリアン・ド・シンファクシ伯爵

「…無論、宮内庁の内部や、他の四大官家の中には、貴殿らの訪問に、眉をひそめる者もおりましょう。なればこそ、世界の救済のために活動する、貴殿らの行動によって、その正道を示してもらいたいのです」

（※GM メモ：RP 待機）

エクセリア

「伯爵閣下のお言葉を聞き、安心しました。ケルディオン大陸が戦乱のただ中にある今、できることは限られましょうが、閣下の想いに応えられるよう、最大限務めさせていただきます」

（※GM メモ：エクセリアが何か言ったことを伝える）

エイドリアン・ド・シンファクシ伯爵

「それはありがたい。そうですね…まずは、帝都の暮らしに慣れるためにも、都市内を見回ってきてはいかがかな？」

等護で何を成すべきかを考えるのは、その後でもよろしかろう」

ここで、以下のキャラクターと会話をすることができる。

- ・エクセリア（※話すとシナリオ進行）
- ・リリアーナ
- ・エイドリアン・ド・シンファクシ伯爵
- ・マルセル（シンファクシ家長男）
- ・クリストフ（シンファクシ家次男）
- ・トーレス

トーレス

トーレス

「…鎮魂だ。準備でき次第…って、なんだ、お前達か。まだ行ってなかったのか？」

まあいい、俺は軍部に上げる報告書を書かねばならない。詳しいことはエクセリアにでも聞いたらどうだ？」

リリアーナ

リリアーナ

「流石は、四大官家のお屋敷です…。トーレス艦長のご実家って、やはり…こう、凄かったのですね」

マルセル

マルセル

「ようこそ、シンファクシ家へ。一族に連なる者として、歓迎させてもらおう。

まあ、なんだ…。マティアスが別姓なのは、家の都合だよ」

クリストフ

クリストフ

「ククク…今頃噂好きの連中は妙なことを言っているのでしょうね」



エイドリアン・ド・シンファクシ伯爵

エイドリアン・ド・シンファクシ伯爵

「どうか、ここを我が家だと想ってくつろいでほしい。貴殿らは、シンファクシ家の正式な客人なのだからな」

## 壮麗なる帝都

君達は、エクセリアに話しかけた。

エクセリア

「では、シンファクシ伯爵のご提案通り、等護の都市内を見て回ることにしよう。ご厚意で間借りさせていただけるとは言え、私達でできることは、私達の手でしておきたい。そのためにも、街の施設を知っておくことは大切だからね」

(※GMメモ：RP待機)

リリアーナ

「そうですね、買い出しをするためのマーケットに、交通手段の確認…。それに、情報が集まる場所も知りたいところです」

そう話していると、シンファクシ伯爵が声をかけてくる。

エイドリアン・ド・シンファクシ伯爵

「案内役として、我が家の執事を同行させる故、分からぬことがあれば尋ねるといい。それと、これを持って行ってほしい」

そう言って、全員に大きめの台紙を渡すだろう。

そこには、賞状の如く文字が大量に書かれていた。

(※GMメモ：「地方語（ヴァルマーレ）」の読文を会得したPLがいる場合 ここから)

それは、ヴァルマーレの言葉で資格情報を表すことが書かれていた。

(※GMメモ：「地方語（ヴァルマーレ）」の読文を会得したPLがいる場合 ここまで)

エイドリアン・ド・シンファクシ伯爵

「それは、貴殿らが我らシンファクシ家に招かれた、正式な客人であることを証明する証書だ。ここヴァルマーレでは、長らく国外に対し門戸を閉ざしてきた。それ故、帝都の多くが異邦人との接し方に慣れてはおらんのでな…。

無礼な態度を取られることもあるとは思うが、その証書を掲げてみせれば、話も通じよう。お守り代わりだと考えて、どうか持っておいてもらいたい」

エクセリア

「ご配慮に感謝します、閣下。シンファクシ家の家名に泥を塗るようなことがないよう、我々も、振る舞いには十分に配慮させていただきます」

(※GMメモ：RP待機)

そう言って、エクセリアはその証書をしまう。

エクセリア

「では皆、出発するでしょう」

ここから、シナリオが分岐します。

- ・ 聖陽の広場（宮内庁前の広場）
- ・ 法条通り（マーケット）
- ・ エーテライト・プラザ

分岐1：聖陽の広場（宮内庁前の広場）

君達は、宮内庁前の広場についたところで、シンファクシ家の執事に声をかけた。

シンファクシ家の執事

「ここが『聖陽の広場』…。太陽神ティダンが持つ、背中の太陽に由来した、帝都最大の広場になります。そして、目の前にある一際大きく荘厳な建物が、帝都の政を司る『宮内庁』です。国教「ヴァルマーレ神道」の最高指導者にして、国家元首たる天皇陛下がお住まいの宮殿でもあります」

(※GMメモ：RP待機)

PC への選択肢

- ・あれが『建国衛士像』？
- ・南に整列する騎士像のようなものは？

シンファクシ家の執事

「ええ、その通りです。建国の父、豪胆将『狭野』と共に、邪竜『フェルニゲシュ』と戦い、これを退けた衛士たちの像です。

この辺りには、他にも壮麗な宗教建築が多いですから、お時間があるときにでも、見て回られるといいでしょう」

## 分岐 2：法条通り

君達は、法条通りについたところで、シンファクシ家の執事に声をかけた。

シンファクシ家の執事

「こちらは法条通り。ここの顔役である『凜』女史に話を伺いましょう」

(※GMメモ：RP待機)

そう言われ、君達は凜に話しかけた。

凜

「あら、見ない顔ね。異国の商人には、見えないけれど…。それに、あなたは…」

(※GMメモ：RP待機)

凜

「…これは、四大官家の証書！？なるほど、シンファクシ家のお客人なのね」

エクセリア

「シンファクシ伯爵のご厚意で、暫く帝都に滞在することになった者です。

滞在中に、入り用になる物も多かろうと思い、商通りの顔役であるあなたを紹介していただいたのです。まずは、ご挨拶に伺いました」

凜

「丁寧にどうも。

私ども商人は、商売をしてこそその存在。

異国の方であろうと、喜んで取引させてもらうわよ。

とある幕政時代の公家の名を借りたこの細長い通りには、武具から食材まで、さまざまな品を売る店がひしめいているわ。探しているものがあったら、ぜひとも立ち寄ってね」

(※GMメモ：RP待機)

### 分岐3：エーテライト・プラザ

君達は、エーテライト・プラザについたところで、シンファクシ家の執事に声をかけた。

シンファクシ家の執事

「こちらが、『エーテライト・プラザ』でございます。まだお済みでないようでしたら、是非『交感』をお忘れなく」

(※GMメモ：RP待機)

君達は、エーテライト・プラザに交感した。

地脈の流れを辿って、《隠れ家》のエーテライトの位置を感じ取った！

ここは、ナリューファ市場街も含めた龍刻地域から、大分遠い場所にあるようだ。

(※GMメモ：RP待機)

### わだかまる貴血

遠い場所にきたことを実感し、君達は次なる場所に誘われる。

シンファクシ家の執事

「さて、次はどちらにご案内いたしましょうか…」

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「執事殿。この辺りには、ほかにはどのような場所があるのでしょうか？」

彼女の質問を聞いて、執事は少し考える。

シンファクシ家の執事

「そうですね…。西には対竜兵器の開発を担う『天鋼機工房』や、軍用チョコボの訓練を行う『聖大厩舎』が…。

北東には『神道衛士団本部』がございます。ですが南東の方には、あまり近づかない方がよろしいでしょう」

(※GMメモ：RP待機)

PC への選択肢

- ・ 近づかないほうがいいとは？
- ・ むしろ近づきたくなっちゃうのですが！

シンファクシ家の執事

「なんと申しましょうか…あまり、治安がよろしくない地区があるのです」

？？？

「ケッ…。品のよろしい貴族のお嬢は、《褪者街》に近づきたくもないってか？」

そこへ、ボロい布地の腹を着た男が現れる。

エクセリア

「どこの誰だか知らないが、私は貴族ではないぞ。初めて帝都に来たところで、案内をしてもらっていただけだ」

(※GMメモ：RP待機)

薄汚れた男

「フン…。どちらにせよ『世間知らず』ってことに変わりはないじゃねえか。

本当の帝都のことを知りたければ、《褪者街》の酒場…『転落する女公の白磁亭』に行くこった。もっとも、その度胸があればだがな、ウハハハハ！」

エクセリアはそれを聞き、即座に《霊子の魔眼》を起動する。それは憎悪による物ではないが、いやしかし確実に頭に来ていることは事実だった。

(※GMメモ：RP待機)

シンファクシ家の執事

「エクセリア様、あのような酔っ払いの下層民が申すことなど、気に留めてはなりませんぞ。かの酒場には、物騒な一面もあるのですから」

エクセリア

「褪者街…女公…。妙に引っかかるな。

執事殿…、私は『転落する女公の白磁亭』に行ってみようと思います。ただ訪れるだけならば、さほどの危険もないでしょう。

お前達も、一緒に来てくれないか？酒場と言えば、情報が集まる場所と相場が決まっているからな。すぐに有益な情報が得られるとは思わないが、情報の窓口は、ひとつでも多いに越したことはない。どんな場所かくらいかは見ておこう」

(※GMメモ：RP待機)

褪せた者の街

君達は、《褪者街》の酒場、『転落する女公の白磁亭』を訪れた。

酒場という割には、嫌に閑散としている。

(※GMメモ：RP待機)

君達の来訪を受け、店主が口を開く。

クリスティン

「おや、珍しいこともあるもんだ。新顔さんご一行の来店とはね」

(※GMメモ：RP待機)

クリスティン

「なるほどね。私はこの店を仕切ってるクリスティンって女さ。こんな小汚い酒場でもいって言うなら、一杯ひっかけていってくれ」

エクセリア

「ありがたい。ところで、この店は随分と変わっているな。1階と2階で様子も違えば、客層も違うようだ」

(※GMメモ：RP待機)

それを聞き、クリスティンは説明をする。

曰く、上の階は専ら任務明けの衛士たちが商売相手。階段下の方は、《褪者街》の者達のたまり場だと。金に乏しい下層民のために、質より量の安い酒と料理を出しているが、「一見さん向き」の場所ではないと。

エクセリア

「褪者街とは…？」

クリスティン

「ああ、あまりにも貧しい者が寄りついている上に、寄りついている者は大体色褪せた服を着ていることが多い。だからこそ《褪者街》と呼ばれている。…お嬢さんの様子だと、何か別の物がひっかかっているようだな」

(※GMメモ：RP待機)

クリスティン

「先日の邪竜の眷族侵攻の折にも、神道衛士団や貴族の私兵たちは、上層を守ろうと必死でね、《褪者街》の警備はザルで、大きな被害が出たものさ。下層民の中には、それを不満に思っている連中も多い。お嬢さんたちも、無闇に近づかない方がいいってもんだぜ」

そう言って、彼女は仕事に戻るだろう。

(※GMメモ：RP待機)

気を張りすぎた少女

君達がシンファクシ家の屋敷に戻ると、エクセリアが急に座り込んだ。

(※GMメモ：RP待機)

エイドリアン・ド・シンファクシ伯爵

「大丈夫かね、エクセリア殿？」

エクセリア

「この程度、問題——」

立ち上がろうとしたところで、エクセリアが急に吐血する。  
出た量は僅かだが、その血が炎を頭にしていた。

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「…力を使っていないのに、なぜ…」

私の事は、今はどうでもいいでしょう。噂以上に壮麗な都でした。数千年以上の歴史が刻んだ重みを感じると同時に、下層の被害を見て、邪竜フェルニゲシュの脅威もまた肌で感じました」

エイドリアン・ド・シンファクシ伯爵

「うむ。先日の邪竜の眷族の侵攻は、我らヴァルマーレの貴族にとっても衝撃的だった。民衆に多くの犠牲が出たことは、痛恨の極みと言えよう。故に現在、ミシガン総長の指揮の下、邪竜対策を進めているところだ。

とはいえ人手不足が深刻でな…、頭が痛いところだよ」

困ったような表情でエクセリアを見るシンファクシ伯爵。それに対し、エクセリアは出来ることがないかを尋ねた。

(※GMメモ：RP待機)

エイドリアン・ド・シンファクシ伯爵

「エクセリア殿、それに暗魂の冒険者たち…」

客人に働かせるような真似はしたくはないが、ヴァルマーレが、かつてない危機に直面していることも事実。ここはひとつ、助力を頼んでもよいだろうか」

エクセリア

「もちろんです、閣下」

その返事を聞き、シンファクシ伯爵は考える。

エイドリアン・ド・シンファクシ伯爵

「エクセリア殿には、『知』をお借りしたい。貴殿は龍刻連邦の現当主ゆえに、相応のパイプを持つと聞く。各種物資の調達先を確保するため、仲介役を頼みたい。



暗魂の冒険者たちには『力』をお借りしたい。我が長男『マルセル』と、次男の『クリストフ』…この二人が抱えている任務に、助力してもらいたいのだ」

伯爵の発言を受け、マルセルが動揺する。

マルセル

「…なんですと！？父上、差し出がましいことを申すようですが、我が任務は、私ひとりの力で十分に果たせます。わざわざ客人の手を煩わせずとも…！」

クリストフ

「…ククク。マルセル卿、これはいい機会ですよ？噂の『英雄』が、自らの意志で助けてくれるのですから。これほど旨い話、他ではあり得ないと思いますが？」

ふたりは、勿論シンファクシ伯爵にキレられた。お前らに楽をさせるわけじゃねえ！！

エイドリアン・ド・シンファクシ伯爵

「律の化身たる神城まどかを退けた上、龍刻先代当主の龍姫公をも上回った英雄を間近に見て、各々が武人としての姿勢を学ぶがいい！

…息子たちの無礼を許して欲しい。改めて、ふたりに手を貸してもらいたいのだが、受けてもらえるだろうか？」

(※GMメモ：RP待機)

エイドリアン・ド・シンファクシ伯爵

「うむ、助かるぞ。どうか愚息たちの手本となってやってほしい」

そう言って、シンファクシ伯爵は部屋から出た。

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「シンファクシ伯爵からの依頼、互いに全力を尽くそう。伯爵が我々の申し出を受けられた背景には、何かしら隠された真意があるはずだからね」

そのまま言葉を続けようとするエクセリアだったが、またしても膝をついてしまう。

なにか、彼女の身に異変が起きているのだろうか？

元ネタ（FF14：蒼天のイシュガルド）では、ここで分岐が発生しますが、進行の都合上、クリストフ（エマネランボジの NPC）ルートから開始します。

## 報酬

### 基本要素

- ・ 経験点：7500 点
- ・ 資金：15000G
- ・ 名誉点：なし
- ・ 成長回数：9 回

### マジテックトームストーン

- ・ 戦記：1000 個
- ・ 詩学：250 個

### その他報酬

- ・ だいじなもの「シンファクシ家の客人証書」